あなたのスキルは社会に役立つ

エンジニアだからできる社会貢献

東日本大震災の発生直後に発足したHack For Japanや「市民が主体となって自分たちの街の課題を技術で解決するコミュニティ作り支援」を掲げるCode for Japanのメンバーを始めとして、日本各地で技術を活用した社会貢献活動が行われています。本連載では、防災や減災、地域の活性化や課題解決、そして人材育成など、「エンジニアだからできる社会貢献」の取り組みをお届けします。

第123回 2021年度「アイデアソン＋仙台」企画運営で得たもの

●Code for SENDAI　高橋 そのみ　Twitter @sonomity

はじめまして。一般社団法人Code for SENDAI（以下、C4SD）の高橋そのみと申します。我々C4SDは、一般社団法人Code for Japanの公認ブリゲードとして2018年12月に発足しました。ICT技術を活かして市民のみなさんとともに考え、行動し、仙台をより暮らしやすい街にしていきたいと考えています。

我々は、国立研究開発法人情報通信研究機構（以下、NICT）・東北大学が主催する2019年度「ハッカソン仙台」、2020年度「アイデアソン＋仙台」（オンライン開催）に続いて、2021年12月4日、12月5日の2日間でオンライン開催された、2021年度「アイデアソン＋仙台」（**図1**）でも運営のお手伝いをさせていただきました。このアイデアソンは、テーマに沿った新しいアプリやサービスを参加者に考えていただき、良いアイデアがあれば実現をしていこうという趣旨のイベントです。

本稿では2日間にわたり司会を務めた筆者が、当日の様子をレポートします。

◆図1　アイデアソン＋仙台2021ポスター

オープンデータの利活用をテーマに開催

コロナ禍による感染拡大を防止するため、企画や打ち合わせを含め完全オンライン（Zoom、Slackなど）での開催となった今年度のアイデアソンは、「まちの魅力発信／住みやすいまちに活かすオープンデータ」というテーマで、オープンデータの利活用にフォーカスしたゴールを掲げました。

プレイベントWebサイトを用意

今回はおもに大学生や一般の社会人の方に参加者を募りました。

その結果、東北大学、宮城大学、弘前大学、秋田県立大学、石巻専修大学、東北工業大学、東北文化学園大学、新潟大学、東京電機大学から15名の大学生、一般企業から9名の社会人、計24名に参加いただきました。

「オープンデータ」という言葉はシビックテック活動を行う方でないとあまり聞き慣れないかもしれません。アイデアソン初参加の方も多く、1日半という限られた時間の中で、参加者がスムーズにアイデア

ソンに取り組むには、オープンデータについて知ってもらう必要があると考えました。そのため、「プレイベントサイト」というものを準備しました。「オープンデータとは？」の解説動画や、データの公開例、使用例、クイズなどてんこ盛りの内容です。イベント前にこのサイトを見るだけでオープンデータの概要が一通りつかめる内容を提供したつもりです。

Slack上での交流

昨年度のアイデアソンではゼミや知人同士で組んだチームによる参加を基本としていましたが、イベント後のアンケートで「他の人とも交流したかった」との声を受け、運営した我々自身も「もっと交流できる時間を設定したかった」と考えていたため、今回は基本的に初対面同士でチームを構成しました。

とはいえ、孤立する人や1人のアイデアだけに引きずられることのないよう、事前アンケートをもとにチームビルディングは慎重に行いました。チーム全員が活発に発言できるよう3～4名を1チームとし、24名を7チームに振り分けました。

本イベントではZoomをおもなツールとして使いましたが、Zoomを使っていないときも事務局やメンター、参加者同士でコミュニケーションがとれるよう、登壇者・スタッフ・参加者全員の交流や情報提供ツールとしてSlackを準備しました。

イベント当日のディスカッション時間を確保するため事前に自己紹介をするチャンネルや、自分がどのチームに所属していて、チームのメンバーはどんな人かをあらかじめ把握できるチームごとのチャンネルなどを設定し、少しでもリラックスして当日を迎えられるような工夫をしました。また、Zoomのブレイクアウトルームに分かれているときも、事務局に質問するための専用チャンネルも設けました。

チーム内でタイムテーブルを作り周知するなど、効率的にSlackを使用したチームも現れました。オンラインでもきちんとコミュニケーションがとれることが証明され、筆者はとてもうれしかったです。

アイデアソン1日目

インプットセミナー／座談会／チュートリアル

アイデアソンは、1日目に「インプットセミナー・座談会」「チュートリアル」「チームビルディングとテーマ決め」、2日目にチームごとに「アイデアソンの発表資料作り」という流れで行われました。

地域課題の解決にどんなオープンデータを活用するか参加者がイメージしやすくなるよう、インプットセミナーでは、仙台市経済局産業振興課の白川裕也氏、Code for Japan代表の関治之氏からそれぞれご講演をいただきました。

白川氏からは、「#東北から、世界は変えられると思う」のハッシュタグについてや、仙台市が公開しているオープンデータの紹介、アイデアが具現化するまでのプロセスなどについてお話しいただきました。東北地方は“人口減少”などをはじめとした「課題先進地」とも呼ばれていますが、これを「課題解決先進地」にしたいという熱い言葉もありました。

そして我々C4SD、ひいてはCode for Japanの産みの親的な存在の関氏からは、コロナ禍におけるICT・オープンデータの利活用の事例、国内外の官民協働・協創の事例などのお話をいただきました。

このインプットセミナーの様子はYouTubeチャンネルにて公開されています[注1]。

このあとは、白川氏、関氏、そしてNICTの西永望氏を加え、筆者が進行を務める座談会となりました（**図2**）。参加者からの質疑応答にお三方が答え

注1　https://www.youtube.com/watch?v=zKVdXOLgVlA

◆図2　座談会にて。西永氏（左上）、関氏（中央上）、白川氏（右上）、筆者（左下）、C4SD川上氏（右下）による質疑応答の様子

る、という形です。この質疑応答が参加者とのインタラクティブな形となり、お三方とも優しくユーモアのある回答をいただき、参加者も肩の力が抜けてきたと感じられました。

座談会のあとは、休憩を挟んでNICTの白岩雅輝氏によるチュートリアルが行われました(**図3**)。今回のアイデアソンでどんなゴールを目指すか、また審査基準などについて具体的に説明がありました。

チームに分かれてアイデアソン開始

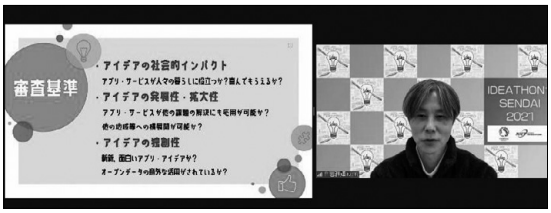
この後チームごとにブレイクアウトルームに分かれ、アイデアの出し合いが始まりました。

アイデア出しには、GoogleのJamboardを使用しました(**図4**)。アイデアソンで最初に行われる、とにかくたくさんのアイデアをふせんに書き出す作業にJamboardは最適です。

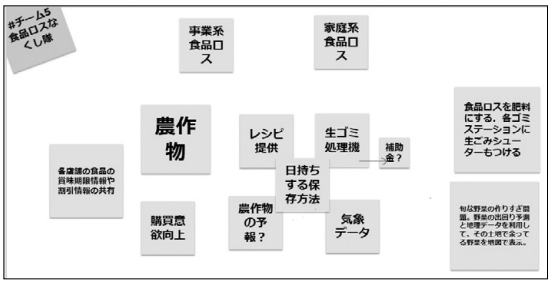
Zoomにもホワイトボード機能がありますが、いちど退出すると、再度Zoomに接続しないと見られなくなります。その点、JamboardはZoomを抜けても作業が続けられます。UIもわかりやすく、簡単に操作できるところが良いと思います。

さて、時間は瞬く間に過ぎ、夕方には各チームのチーム名とキャプテン(チームリーダー)、発表テーマ概要が決まったようです。

◆図3　NICT白岩氏によるチュートリアル



◆図4　Jamboardを使ってのアイデア出し



アイデアソン2日目

一晩の熟成を経て、参加者は一気にアイデア発表へラストスパートをかけます。この様子は本当に見事なものでした。

発表資料作成へダッシュ

ブレイクアウトルームを巡回していくと、黙々と作業しているチームがありました。なんとすでに資料作成の手分けが済み、各自で手を動かしているのです。正直ここまで早いとは思いませんでした。オンラインという条件が障壁になると思っていましたが、チームによってはむしろ集中力を高めることにつながったようです。

今回はGoogleスライドのひな形を準備しましたが、発表ツールは自由としました。ほとんどのチームが共同作業できるツールを選択し、1人だけがスライド作成を担当することもなく、各自の得意分野を資料化して1つのスライドにまとめていました。正直感動しました。

いよいよ発表タイム！！

そしてアイデアの発表タイムがやってきました。この1日弱のわずかな時間で、どのチームも見事に仕上げてきました。各チーム7分間のプレゼンと3分間の質疑応答をメンバー全員で手分けして対応する姿に目頭が熱くなりました。

審査

アイデアの審査は、主催および下記の協力三団体の代表と、仙台市の白川氏により行われました。

- 一般社団法人宮城県情報サービス産業協会(以下MISA)
- 一般社団法人マシンインテリジェンス研究会(以下MITOOS)
- Code for SENDAI

審査の間、参加者にはZoomのブレイクアウトルームで交流を楽しんでいただきました。

採点システムはGoogleフォームとGoogleスプレッドシートを使い、自動集計機能だけでなくヒートマップ表示やコメントシートなど、ほかの審査員の評価も確認できるようにしました。審査員が離れたところにいても、スムーズに集計・審査できます。

実は昨年、筆者を中心に手痛い失敗があり、審査に膨大な時間がかかりみなさんに大変なご迷惑をおかけしてしまいました。その反省をふまえ、今年はそのようなことが起こらないようにと考えました。

表彰式

正直、どのアイデアもすばらしく、発表も整理されていて見事な出来栄えでしたので、7チームすべてに賞が与えられました。

その中でも最優秀賞の「NICT賞」は、チーム「ダイバーズピープル」の「ドラゴンヘルスRPG」(**図5**)に授与されました！　これは、地域貢献につながるクエストを達成することにより、自身の健康増進と地域活性化が同時に行えるというゲームです。

また、優秀賞となる「東北大学賞」は、チーム「DEKASEGI」の「フルリモートエンジニアに企業を紹介するプラットホーム」に授与されました。エンジニアを必要とするスタートアップ企業をマッチングさせ、仙台市に住みながらフルリモートで働くことができ、仙台市も税収が見込めるというアイデアです。

そして、仙台市賞である「The Greenest City Sendai賞」は、チーム「食品ロスなくし隊」の「FOOD推す」に授与されました。AIで余剰農作物の予測を行い、余った野菜と消費者の属性にマッチしたレシピを紹介してフードロスの軽減を目指すサービスです。

各チームのアイデアは公式サイト[注2]からご覧ください。ここで得られたアイデアはいずれも可能であれば実現したいと考えています。

◆　◆　◆

筆者自身が運営に携わる中で感動がたくさんありましたが、とりわけうれしかったのはイベント終了後の交流タイムで、何名かの学生さんが積極的に他チームのルームに入っていき、会話が盛り上がっていたことです！　まだ続くであろうオンラインの世の中において、学生さんたちがコミュニケーションに飢えているのではないかと心配しておりました。そんな中でこうしたイベントを通じて、新たな仲間や社会人との交流も得られたことが学生さんたちの未来に良い影響を与えられたら、運営側としてこれほどうれしいことはありません。また、社会人の方も、社会課題と向き合う機会を得たり、住んでいる地方を問わず新しいコミュニティと出会ったりしていただけたなら幸いです(**図6**)。

公式サイトをご覧になり、ぜひとも実現に協力したい！という方がいらっしゃいましたら公式サイトの問い合わせ先からご連絡ください！

最後に、本イベント主催のNICT、東北大学のみなさん、協力いただいたMISA、MITOOSのみなさん、後援いただいた仙台市、宮城県、総務省東北総合通信局のみなさん、関氏、そしてC4SDの仲間すべてに御礼を申し上げます。SD

◆図5　NICT賞 チーム「ダイバーズピープル」

◆図6　記念写真のスクリーンショット。みなさんお疲れさまでした！

注2　https://www.nict.go.jp/resil/ideathonSendai2021/